

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077900084
法人名	(株)アクロス九州
事業所名	グループホーム コスモピア大木
所在地 (電話番号)	福岡県三潴郡大木町絵下古賀284-1 (電話) 0944-33-2322

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-5 北九州ビル8F		
訪問調査日	平成19年10月23日	評価確定日	11月17日

【情報提供票より】(平成19年10月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	12 人	常勤 10人, 非常勤 0人, 常勤換算 2.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木骨造り 2階建ての1~2階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)8,000円	
敷金	有(100,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 780円			

(4) 利用者の概要(10月6日現在)

利用者人数	13名	男性	3名	女性	10名
要介護1	1名	要介護2		2名	
要介護3	6名	要介護4		3名	
要介護5	1名	要支援2		0名	
年齢	平均 85.7歳	最低	79歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たなか内科医院 / 毛利歯科医院 / 宮崎整形外科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

豊かな自然に囲まれた田園地帯に「グループホーム コスモピア大木」が立地している。内部は木造造りで、窓は広く自然光が入りとても明るい。窓からは広々とした田んぼが見渡せ、ゆったりした気分に浸れる環境である。開設して6年目に入り、今までの介護の経験をふまえ、家庭的で穏やかで安心した日常生活が提供できるように支援している。また、職員の採用条件を高齢者が好きな人となっており、介護職員の入居者への接し方の暖かさを感じられた。認知症の進行は、ほとんど見られなくなったが、高齢化に伴い、身体介護や終末期が課題になってきている。「看取り支援の基本方針」を作成し、入居者の意思を尊重しながら、家族・主治医と連携をとり、数人の方を看取った。家族から、とても感謝された。これからも入居者の意向にそって、看取りを含めたケアの充実を図っていききたいと考えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、特に指摘事項はなかったが、グループホームを地域に理解していただくため、「ホームだよりを地域に配布しては」との提案があった。4ヶ月に1回発行し、地域の方に配布するように改善した。外部評価の機会をケアの見直しととらえ、改善に努力されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	職員全員で自己評価に取り組むことで、ケアを振り返り、職員同士が連携して改善に取り組む機会とすることができた。
	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議は、区長・民生委員・住民代表・行政職員・利用者家族・管理者・ケアマネジャー・職員が参加し、平成18年5月より、2ヶ月毎に開催している。会議内容は入居者の状況・レクリエーションなどの活動報告や勉強会・外部評価の報告などを行っている。今後は運営推進会議にできるだけ多くの職員を参加させ、積極的な交流や意見交換を行い、ケアの質の向上に活かしていきたいと考えている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	利用料の支払いは持参してもらおうとしている。月に1回は必ず家族が面会に来られるため、預かり金の残高及び出納帳の確認をしてもらいサインをもらっている。また、担当職員が入居者の近況や写真などを手紙として家族に郵送している。苦情処理については運営規定に掲げている。玄関にはメッセージボックスを設置しているが活用されていない。家族が来られた時や電話連絡の際には、コミュニケーションを密に取るようにし家族の意見や意向を聞くようにしている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に入会して、公民館や老人会の行事などには積極的に参加し、地域との交流に努めている。グループホームを理解していただくために「ホームだより」を配布している。今後は、その「ホームだより」を活用され、地域向けに介護相談などの案内を記載し、地域住民に気軽に訪れていただけるように地域との関係を更に高めることが期待される。

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、その人らしくをモットーに「思いやり・いきいき・たすけあい・共に支え共に生きる」を理念に掲げ、家庭的な環境で暮らすことができるように支援している。法改正により地域密着型サービスの役割を果たす理念の文書が求められる。		平成18年の法改正により、理念に地域密着型サービスとしての内容が求められ、地域とのふれあいなど地域の中で果たす役割を文書として修正・追加するなど求められる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は共用空間の目につく所に掲示され、毎朝、朝礼時に唱和し、申し送りや会議などで共有化し、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、近隣へ回覧板を入居者と職員が届けたり、公民館や老人会の行事に積極的に参加するなど、地域との交流に努めている。また、グループホームを理解してもらうために「ホームだより」を配布し、地域とのコミュニケーションを図るように努めている。		「ホームだより」などを活用され、地域向けに介護相談などの案内を記載し、地域住民に気軽に訪れたいただけのように地域との関係を高めることが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組むことで、ケアを振り返り、職員同士が連携して改善に取り組む機会とすることができた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に2ヶ月に1回開催し、入居者の状況・レクリエーションなどの活動報告や勉強会・外部評価などを行っている。今後は運営推進会議にできるだけ多くの職員を参加させ、積極的な交流や意見交換を行い、ケアの質の向上に活かしていきたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター主催の研修会に参加している。また、行政や高齢者ケア関係者から構成される地域ケア推進協議会の会員となっており、その中で情報交換を行うなど連携を図っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	研修会や勉強会の機会をとらえ参加し伝達講習を行っているが、権利擁護の制度の理解までには至っていない。		職員の制度の理解を育む機会をつくり、入居者や家族に権利擁護の制度の紹介や必要な人に制度が活用できるような取り組みが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の支払いは、持参してもらうようにしている。毎月1回、家族が面会に来られるため、預り金の残高及び出納帳の確認をもらい、サインをもらっている。また、担当職員が入居者の近況や写真などを手紙として郵送している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に意見や苦情が言ってもらえるように、日頃からコミュニケーションを密に取るようにしている。また、意見や苦情などを把握するために玄関にはメッセージボックスを設置している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限におさえているが、夜勤の関係もあるのでユニット間の職員の相互交流を行い、ユニットを超えて入居者と職員がなじみの関係にあるように努め、異動や離職などの際のダメージを防ぐ配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用にあたっては、性別・年齢を基準にしていない。ただ働くだけでなく、職員の社会参加や自己実現を図れるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	全職員が研修会やセミナーなどに参加できるように環境づくりに努めている。今後、研修記録を残すことが求められ、研修の情報を共有できるように取り組む必要がある。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	新人研修や法人内外の研修など、状況に応じて研修の機会を設けている。また、自己実現のための支援体制がある。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	地域のグループホーム連絡会に加入し、同業者の情報交換や相互訪問などを行い、サービスの質の向上に努めている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	体験入所ができ、入居者や家族が納得した上で入居できるように支援している。また、入居前にグループホームに来所された際には、ホームの入居者と職員と共にお茶を飲んだり、話をしたり、なじみ関係づくりに努め、入居に至るまで慎重にすすめている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、日々の入居者の意向などに配慮し、「何をしたら楽しんでいただけるか、何をすれば喜んでいただけるか」を考え、暮らしの中で生き甲斐を感じていただけるように支援している。時には1対1で、じっくりと話をする時間を取り、共感しあい、入居者から学ばせていただく気持ちでケアを行っている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	入居者との何気ない会話の中から、思いや希望を把握し、入居者の思いにそうように努めている。また、入居者の思いや希望を職員が勝手に判断しないように心がけている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	入居者の人生史シートを参考に、入居者や家族の意見や意向をふまえ、サービス担当者会議・ケース検討会にて兼用し、介護計画を作成している。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	3ヶ月に1回見直しを行っているが、緊急性がある場合は、期間にこだわらず、利用者の状態変化に応じた介護計画を作成している。その際、介護計画の効果を評価し見直しを行っている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	家族が病院受診を希望し連れていけない場合など、職員が通院介助を行うように支援している。また、訪問歯科や口腔指導を受けている。入浴の際には、大浴場もあり、温泉気分を楽しむことができる。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居者や家族が希望されたかかりつけ医を最優先している。家族の意向や状況に応じては、受診や往診の支援をしている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	入居の際には、入居者・家族の意思・意向を確認し、「重症化・看取りの支援に関する意向確認書」にサインをもらっている。ターミナルケアは経験があり、医療との連携体制がある。また、看取りについては、基本方針を作成し、職員全員で共有している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	職員は入居者を人生の先輩として尊敬の気持ちを持ち、声かけには注意するように取り組んでいる。また、日頃のケアも入居者のプライバシーを損ねないように、本人の前でケアの話はしないなど努めている。個人記録の取り扱いには注意がなされている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者の希望される過ごし方を心がけ、入居者の判断能力に合わせた声かけを行い、何をしたいか、何が食べたいか、職員が一方的に提供するのではなく、選択や自己決定を促す取り組みを行っている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	料理の下ごしらえや配膳など、入居者の能力を活かしながら、職員と共に行っている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	大浴場があり、曜日を決めて入浴している。温泉気分で、日常とは違った楽しみ方ができ、喜ばれている。また、1人で入浴できる風呂も完備され、入居者の希望に応じている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の高齢化に伴い、できることが少なくなってきているが、入居者の人生史シートをもとに、入居者が今できることに重点をおいて個別に支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	日常的に田園風景が広がる自然が豊かな環境のため、外気浴を兼ねて散歩に出かけたり、近くのスーパーに買い物に出かけている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	居室の鍵をかけることは一切していない。玄関の鍵は早朝・夕方の職員の手薄になる時でも、かけないように心がけているが、入居者の状態によっては職員の手薄になる時だけはかけることもある。		基本的には鍵をかけないケアを実践しているが、危機管理として、玄関にセンサーや呼び鈴など取り付けることも検討されてはいかがだろうか。
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	地域や消防署の協力を得て防災訓練を行っている。また、災害対策マニュアルを作成している。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	一日を通して栄養バランス・水分量(1000cc)を確保するようにしている。自力摂取に支障のある入居者に関しては、状態に応じて介助を行っている。また、水分摂取についても一定量摂取できるよう工夫している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は広く、特に木造りの広い階段はリハビリにも利用できそうである。周辺は静かな田園地帯で、窓からは四季折々の風景がみえる。夏の暑い日ざしは、スタレをかけ、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室の入り口には一人ひとり違った花が飾られている。ギャッチベットは準備しているが、布団その他のものは、入居の際になじみの物を持参してもらっている。希望によっては和室が利用でき、その人らしい暮らしができるように支援している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			